

第27回 SRお客様交流会

2018年9月21日(金) 大田区産業プラザPiO

会社存続の危機を全社員で克服! SRで安全と輸送の品質向上を達成

株式会社 明送 様

- 所在地: 茨城県守谷市百合ヶ丘1丁目2354-100
- 設立: 1967年7月1日
- 代表者: 代表取締役 鶴岡英男
- 事業内容: 冷凍輸送(冷凍食品やアイスクリームなど)
低温輸送(乳製品・食品・チルド製品など)
医薬品輸送(温度管理や輸送基準に沿った業務)

SR導入 SRConnect 87台
※ 2018年9月末現在



代表取締役
鶴岡 英男



これが我が社のSR導入効果
交通事故が激減、燃費効率改善
さらに会社再生の一助にも!!

新生・明送がめざした“復活のカギ”は 安全に対する教育の強化と設備投資

2007年、弊社は急激な事業拡大がたり、多額の負債を抱え、民事再生を申し立てました。2008年に前社長が辞任し、私が代表取締役に就任。そこから“新生・明送”として再スタートを切り、今年で会社設立から51年、民事再生から11年を迎えました。

再生計画の軸に「安全第一」を掲げ、安全に対する教育の強化と設備投資の実施を計画する中で、お世話になっている取引会社からの紹介でセイフティレコーダと出会いました。



図1 他社製デジタコと比較検討し、SR導入を決定。SRお客様交流会にも参加し、他社の成功事例を見て、その満足度が高いことも要因のひとつ(中央のSRは、明送様が導入している『SRConnect』)



【ドライバー】

SRによって急発進、急制動はしないこと
右左折時の進入速度を落とすことに気づいた。
自然と安全運転を心がけるようになった。

車間距離を保つようになり、
余裕を持ったブレーキができるようになった!!



【管理者】

SRの安全運転診断を元に、ドライバーとの対話を大切にしています。一方的な指導教育にならないようにして、公道で走ることの自覚と責任を持ってもらうようにしています。

図2 SR導入後の変化についてドライバーと管理者の感想

一般的なデジタコと比べて、「走り方を重視」「安全運転が自然に身につくこと」、また導入企業の効果や実績などを見知して、2009年にSR導入を決めました(図1、2)。

SR得点+お客様からの好感度 安全運転技術向上と社員教育を徹底

ドライバーの年間表彰を実施し、SR得点はもちろん、車両清掃、客先評価、身だしなみ、商品の扱いなどで総合評価し、大型・中型部門で各1名の最優秀ドライバーなどを決定(写真1、2)。SRグランプリにも積極的に参加し、現在までに多数の賞をいただいています。



写真1 年間の優秀ドライバーの栄誉を讃える社内表彰式の様子



写真2 社内表彰式に参加したデータ・テック田野社長(上)。データ・テック主催の全国規模でSR得点を競い合う「SRグランプリ」にも積極的に参加して数々の賞を受賞(右)。第7回のSRグランプリでも団体賞、個人賞、特別賞の8つを受賞(P.2下ご参照)



どんな財産よりドライバーさんが大切 「社員さんファースト」の考え方

SR導入とともに、綿密なコスト試算のもと約10年をかけて100台の車両を入れ替えました。その際、車両の最高速度を時速80kmとし、安全運転を徹底しています。

会社のロゴマークとユニフォームを刷新し、「社員さんファースト」として様々な環境改善策を実施(図3)。「社員の給料は絶対削減しない」ことを前提とし、SRによる安全効果で燃料費や修理代などを削減しています。その他、従業員やその家族に喜んでいただける、福利厚生やサブライズイベントを設けています。

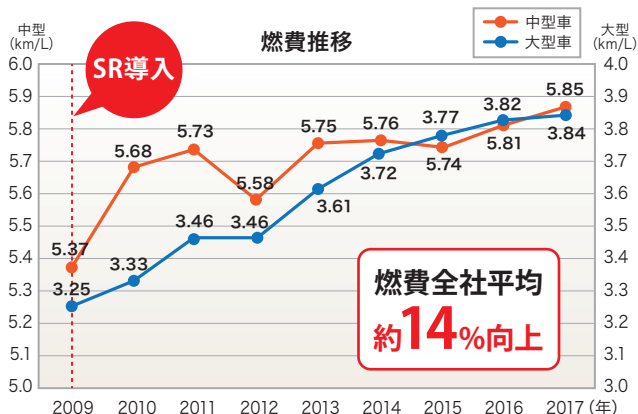


図3 「社員さんファースト」の福利厚生やイベントが充実。ドライバーの家族にも一緒に喜んでもらえて、働きやすい社内環境づくりをめざす。ドライバーを含めて社員全員を大切にすることで、人材不足や離職問題にも対応している

運送業界の民事再生モデルになり さらなる輸送品質の向上で社会貢献

現在では、民事再生開始時と比べて売り上げが1.7倍に成長しました。SR導入で交通事故が減るとともに、燃費が全社平均で約14%向上(グラフ)。車両保険の割引率も8年連続で最大75%を達成しました。

明送は、これから中期目標として、車両台数130台、従業員数150名をめざします。会社存続の危機と再生の苦難を支えてくださった、お客様や従業員など関係各位に感謝するとともに、さらなる輸送サービスの品質向上を継続し、社会へ貢献していきたいと思っています。



グラフ 最高時速80kmを全社でルール化し、エコドライブを徹底した結果、中型・大型ともに燃費が向上。2009年のSR導入後、約8年で全国3事業所の平均燃費が約14%も向上した



第7回 SRグランプリ結果発表と表彰式

各社コンマ1を競い合うハイレベル

第7回SRグランプリは、2017年7月1日～2018年6月30日までに全国のドライバー402名が参加し、厳正なる審査の結果、各賞が決定しました。

各賞受賞企業様の声



山岡産輸株式会社 様

【団体賞】乗用車部門1位(本社) 【個人賞】乗用車部門2位(本社)
【特別賞】中型トラック部門1位(中部営業所)
大型トラック部門1位(本社)/2位(本社)※1/3位(本社)

これからも、ドライバーの安全運転技術向上と事故抑止に向けて、SRをますます活用していきたいです。



株式会社明送 様

【団体賞】中型トラック部門3位(東北営業所)、大型トラック部門1位(東北営業所)
【個人賞】中型トラック部門2位(東北営業所)、大型トラック部門1位(東北営業所)/2位(埼玉営業所)/3位(東北営業所)
【特別賞】中型トラック部門2位(埼玉営業所)、大型トラック部門2位(埼玉営業所)※2
※1と※2は同率2位

事故撲滅のため、ドライバーと管理者がー丸となって限りなく事故0(ゼロ)をめざしてがんばります。



第7回SRグランプリ受賞式の様子

団体賞 乗用車部門

第1位	山岡産輸株式会社 本社	92.91点
第2位	株式会社ガスエネルギー大分 宮脇グループ	85.08点
第3位	株式会社ガスエネルギー大分 松蔭グループ	85.05点

団体賞 小型トラック部門

第1位	新雪運輸株式会社 湘南営業所	94.84点
第2位	新雪運輸株式会社 野田営業所	94.79点
第3位	新雪運輸株式会社 川口・東川口営業所	93.77点

団体賞 中型トラック部門

第1位	新雪運輸株式会社 三郷営業所A	97.44点
第2位	新雪運輸株式会社 湘南営業所	97.42点
第3位	株式会社明送 東北営業所	97.34点

団体賞 大型トラック部門

第1位	株式会社明送 東北営業所	99.69点
第2位	東電物流株式会社 中央支社 横浜事業所	99.47点
第3位	東電物流株式会社 群馬支社 上尾事業所	99.20点

個人賞は弊社サイトをご覧ください。 <http://www.datatec.co.jp/event-grandprix/>

SR 取り組みの達人に聴く vol.2

すでにSRを導入した運送会社では、社内でさまざまな取り組みを実施しながら効果を着実に上げています。

その効果は、「事故や違反の削減」「燃料費改善」「ドライバーの安全意識向上」など、さまざまです。

日々の業務にSR搭載の車両を使う、3社の導入事例をご紹介します。

「SR取り組みの達人たち」の声に耳を傾けていただければ、

SRの導入を考えておられる、経営者様や管理者様にとってヒントやきっかけになるはずです。



まずは事故ゼロ、売り上げやサービス品質向上に期待

関東日本フード 株式会社様

SR導入の経緯

日本ハムの食肉販売部門。業務拡大につき車両やドライバーの増加と比例して、事故や違反が増えてきた。SRを試験導入したところ、数値やデータとして「運転が乱暴」なことが判明し、「事故撲滅+コストダウン+温暖化対策」として、2018年に全国113の営業拠点で使用する全車両1,360台にSRを導入した。

SRを使った取り組み、効果など

SRの強みは、「運転の癖を正確に捉える」という点であり、その癖を是正する具体的な指導ができること。導入後、間もないので、まずは「事故0(ゼロ)」を実現させたい。車両の動態管理と販売データなどをリンクさせ、駐車時間と納品量の相関関係を見ることをはじめ、配送時間短縮や輸送品質向上など、SRデータを売り上げやサービス向上にも活用し、今後も事例紹介できるようにしたい。



中井室長

「やさしい運転」と「やさしい関係」の両方を実現



松井常務

有限会社 クリヤー梱包 様

SR導入の経緯

2008年、他社の運行管理者にSRの映像を見せてもらい、たいへん興味を持った。その翌日、データ・テックからDMが到着したため、「何かの縁」を感じた。当時は不況のさなかで、経営者は難色を示したが、「危険運転や挙動が目で見えてわかること」を理解してもらい、SR導入に踏み切った。

SRを使った取り組み、効果など

若手社員は、デジタル機器への抵抗が少なく、SR導入も円滑に進んだ。導入後、運転の振り返りや、得点UPのコツなどの会話が、ドライバーから自然に出るようになった。SRを介することで、管理者とドライバー間のコミュニケーションが円滑になったのも嬉しいポイントだ。SRは「やさしい運転」の実現とともに、「やさしい関係」が築ける理想のツールだと思う。

ドライバーの運転技術を向上させ、会社を一体化

山岡産輸 株式会社 様

SR導入の経緯

運行管理体制の強化を図り、古い運送業者としての体質を改善し、「社員を一方向に向け、会社を一体化したい」という強い想いでSRを全車両に導入した。時間管理を徹底し、ドライバーの運転技術と勤怠状況の実態を掴み、SRによる具体的で適切な指導の実現をめざした。

SRを使った取り組み、効果など

SR得点だけではなく、「伸展率」を重視している。「SR得点=安全指数」とし、全ドライバーの安全指数ランキングを毎日掲出。月間優秀者には表彰状とQUOカードを進呈し、ホームページに優秀ドライバーを紹介。ドライバー個々とともに、会社全体の安全指数の底上げを図っている。その結果、会社の体質改善とともに利益も出るようになり、SRで「会社の一体化」に弾みがついた。



渡辺最高顧問



1 どうする? 労務時間管理

国が労働者を守るため拘束時間などを厳しくしているが、規制に対する補助や対策が不十分。例えば「改善基準告示」は、国が認知を進めている段階であり、荷主や荷受会社側でも形骸化している。現場の労働事情や、運送会社と荷主とのリアルな関係性、経営実態を踏まえた、国の規制・措置が望まれる。

2 日々の損益を見える化

「収支日計」は、物流業界では4割程度の企業でしか採用していないが、儲かっている企業の上位20社は実施済。「財務管理」ではなく、「管理会計」を行うことで、実績をとらえ次のアクションの判断材料にもなる。損益の見える化だけでなく、企業の問題点を明確にし、改善策を立てるためにも最良なので、是非やるべきだ。

3 究極の安全指導をSRで! (グループ1)

SRで「運転の見える化」を行い、事故の発生しやすい場所や、ドライバーの傾向や癖などを把握。管理者または外部委託の指導者に添乗してもらい、運転技術レベルに合った指導を行う。SR得点の優秀者への褒賞制度は、企業文化や方針の違いもあり各社さまざま。「褒賞制度＝運転技術向上」に直結するわけではない。

4 究極の安全指導をSRで! (グループ2)

管理者からドライバーへの一方的な指導ではなく、ドライバー同士で自分たちの運転について対話しながら、教え合うことが大切。SR映像によるKYT※でグループ討論することも有効。またSR得点の高さだけを偏重せず、広くデータを読み取り、改善策をドライバー自身で考えさせることが重要だ。

※ 危険予知トレーニング

5 究極の安全指導をSRで! (グループ3)

SR導入後、事故削減や燃費向上などの効果が得られても、「SRへのマンネリ化」や「ドライバー間での技術の平準化」などの問題が発生しがちだ。表彰制度やランキング掲出などを行っても、なかなか効果が上がらない場合がある。問題があるドライバーの性格を見ながら、SR運転診断の重要性、運転の振り返りの意義を対話による指導や社内ルールで理解してもらう必要がある。

6 フォークリフトにも運転評価を

『SR Forklift』は、運転データをSDカードから取り込むことで映像によるKYT※や運転診断結果を技術教習に活用できる製品である。カードレスのクラウド対応版や、倉庫内地図・制限速度の「見える化」が要望として挙がった。

7 失敗しない人材採用と定着!

求人サイトや自社サイトを積極的に活用し、魅力的な会社であることを本人もしくはその家族に理解してもらう。その際、PCだけでなく、スマホ対応はもはや不可欠。勤続年数の長い社員や、女性、外国人などの具体的な現場の声を記事にすることで、入社後のミスマッチによる離職を避けられる。文字や写真だけでなく、社員インタビューなどのビデオ映像も活用したい。

業務効率・安全対策 最新情報

ますます充実! SR対応製品

SRと連携する製品やサービスが各社から続々と登場。

株式会社JVCケンウッドの通信型ドライブレコーダー

『STZ-DR01』は、新製品の低価格SR『SR Pocket II』、クラウド型安全運転診断システム『SR-WEB解析システム』と連携可能。SR Pocket IIの走行データと、STZ-DR01に付属する2台のカメラで撮像した事故発生時の映像を、本体に内蔵の通信機能でクラウドへ送信。走行データと映像をリアルタイムに一括管理できる。

ドコモ・システムズ株式会社の『LTE高速通信対応ドライブレコーダー』は、SRの運転診断技術を利用して、安全運転管理情報と車両の動態管理情報をリアルタイムに確認、一括管理できる。同製品は、約1年前に販売しており、現在までに



約2万台以上の販売数を記録した。

株式会社菱和は、『SRConnect』に連動可能な後方確認カメラ『カービジョン(三菱電機製)』を販売。高い耐水性や耐振動性を有し、夜間の駐車場や倉庫など0.5lxの暗所でも高感度な撮像を実現した。また同社は、**SRConnect対応の『ETC2.0車載器』**を販売。高速道と一般道の自動検出が可能になり、運輸日報にETC利用状況を自動反映できる。



第28回 SRお客様交流会

2019年3月14日(木) 開催予定
(東京・大田区産業プラザPiO)



各種セミナー & 展示会

経営戦略セミナーや展示会を
随時開催中



第8回 SRグランプリ エントリー募集中!

安全運転
NO.1
決定戦

【開催期間】
2018年7月1日～2019年6月30日
【部門】
乗用車、小型トラック、中型トラック、大型トラック

イベント、セミナーの詳細は、弊社ホームページをご覧ください。 URL: www.datatec.co.jp/event/

創立35周年
データ・テックは2018年7月に
創立35周年を迎えました

株式会社 **データ・テック**

〒144-0051
東京都大田区西蒲田7-37-10
グリーンプレイス蒲田11階

TEL.03-5703-7060
FAX.03-5703-7063
<http://www.datatec.co.jp>

2018©株式会社データ・テック
SRNEWS_VOL.71 1811C30-(0)